

実態は

1. モズのはやにえ

モズは9月の声を聞くと山地から降りてきて、キーンと高鳴きして縄張りを作り始めるのです。そして、木々が落葉した12月から1月は、はやにえ(早贄)を見つけやすくなります。いろいろな動物をトゲや木の枝に突き刺しておくこの習性は有名ですが、枝などと同じ色に同化してしまい、意識して見ないと気づけません。

畑や林縁などに多く、打吹山では陸上競技場上の有刺鉄線とか、長谷寺周辺のウメの枝がお勧めです。しかし、モズは場所・物を選ば



カナヘビのはやにえ

ないように、薄暗い大江神社の下にもありました。獲物も選ばないように、カナヘビ、カエル、バッタなどの他、なんでもありのよ

うです。動くものは狩の対象です。上手に突き刺し、あまり尖っていない枝にコガネムシのようなかたいものでも形を崩さずに突き刺します。

この習性は何のために行うのか分かっていません。貯食しておく、腹が減っていなくても狩をしてしまう、ただの本能的な行動、など諸説あり

ますが、いつまでもそのまま残っていたり、突き刺してすぐ食べたりと、うまく事実を説明できていません。観察して新説を提唱してください。

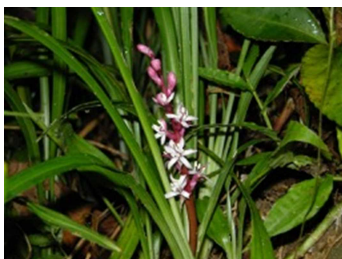


センチコガネのはやにえ

2. キチジョウソウ

目出度い名前なので取り上げますが、特定の時期に目立つわけではありません。冬枯れの中でチラリと目につくことがあります。正月飾りに使う万年青(おもと)のような赤い実が目に入ります。栽培して吉事があると花が咲くという、縁起が良いことが名の由来ですが、滅多に咲かないのではありません。環境が問題なのです。

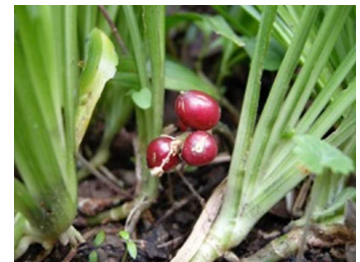
ランのような、しかし、やわらかい葉を年中青々とさせ、株から年に一度出す地下茎は先端に新しい株を作り、全株がつながった大きな群落を作ります。樹下の草で日陰に強く、庭のグランドカバーとして使われるため、市販もされています。打吹山では、公園部分や山麓の水分の多い遊歩道や長谷寺周辺、みどり町から上がる谷などに見られます。道端の株に花や実が見られることからわかるように、開花に必要な条件は水分があって日照もあることです。



キチジョウソウの花

秋10月に咲く花は、花穂の茎が濃い紫色、花弁の外側も紫色で内側が白と対比が素晴らしく、感じの良い花です。赤い実はつやつやと水分たっぷりで、動物に食べられて種子を散布していると思われませんが、食べていないので味のほどはわかりません。地下茎で増殖する方が主力のようです。

地域によって形質に個体差があり、打吹山の個体は地下茎の色は緑色ですが、倉吉市の北谷では紫色でした。



キチジョウソウの実



キチジョウソウ